

最近約3年間の研究業績リスト

(客員教授用申請 2021年8月19日付リストへの追加)

2024年12月現在

永岑三千輝

1. 著書

① (単著)

『アウシュヴィッツへの道——ホロコーストはなぜ、いつから、どこで、どのように』横浜市立大学新叢書13、春風社、2022年3月刊。

② (共著：担当章執筆)

「航空機開発と大西洋横断飛行——ユンカースの挑戦と航空熱——」高田馨里編著『航空の二〇世紀——航空熱・世界大戦・冷戦』第4章、日本経済評論社、2020年3月刊。

2. 論文 (すべて単著)

- ① 「第三帝国の全面的敗退過程とアウシュヴィッツ 1942-1945」『横浜市立大学論叢』社会科学系列 2021年度：Vol.73 No.1、2022年3月刊。
- ② 「第三帝国敗退最終局面とハンガリー・ユダヤ人の悲劇 ——1944-1945大量殺戮の歴史的文脈——」『横浜市立大学論叢』社会科学系列 2021年度：Vol.73 No.2・3、2022年10月刊。
- ③ 「独ソ戦・世界大戦とドイツ・西欧ユダヤ人の東方追放——「ユダヤ人問題最終解決」累進的急進化の力学——」『横浜市立大学論叢』人文科学系列、74-1、2023年5月刊。
- ④ (研究ノート)「ユンカース・アルヒーフ——歴史と史料の紹介——」国際武器移転史』第16号、2023年8月、57-71。

3. 書評

- ① 菅野賢治『「命のヴィザ」言説の虚構——リトアニアのユダヤ難民に何があったのか?』共和国、2021
- ② ダニエル・リー『SS将校のアームチェア』庭田よう子訳、みすず書房、『週刊読書人』3425号、2022年2月4日。
- ③ 板橋拓己『分断の克服——統一ドイツをめぐる西ドイツ外交の挑戦』中央公論新書、2022年9月10日刊、『週刊読書人』第3465号、2022年11月18日。
- ④ 中野智世・木畑和子・梅原秀元・紀愛子『「価値を否定された人々——ナチス・ドイツの強制断種と「安楽死」』、『社会経済史学』Vol.88, No.3, 2022年11月。

- ⑤ 山下尚一『ショアあるいは破滅のリズム、エポック 1, 2, ——現代思想の視角』勉誠社、2023 年 3 月刊、『週刊 読書人』3492 号、2023 年 6 月 9 日。
- ⑥ 野村真理『ウィーン ユダヤ人の消えた街』岩波書店、2023 年、『週刊読書人』3525 号、2024 年 2 月 2 日。
- ⑦ 西尾隆志『日独航空技術移転史 1919～45 年』日本経済評論社、2023 年 10 月刊、『国際武器移転史』第 18 号、2024 年 7 月。

4. 事典項目

「独ソ戦・ホロコーストと鉄道」老川慶喜ほか編『鉄道史大事典』朝倉書店、2024 年 10 月刊。

5. 学会報告

① 明治大学国際武器移転史研究所

「第一次世界大戦終了までのユンカーズの航空機開発——史料紹介——」、2023 年 3 月 14 日。

② 政治経済学・経済史学会・東海部会・合評会、筆者解題と討論、Zoom オンライン

対象：拙著『アウシュヴィッツへの道——ホロコーストはなぜ、いつから、どこで、どのように』横浜市立大学新叢書 13、春風社、2022 年。

ディスカサントからの質問・コメントとリプライ・討論

北村 陽子教授（名古屋大学・人文学研究科）

福澤 直樹教授（名古屋大学・経済学研究科）

③ ADWG（ドイツ資本主義研究会）・拙著合評会、専修大学神田校舎。

報告（筆者解題と現在の課題）と討論

評者：山井敏章（立命館大学教授）

対象：拙著『アウシュヴィッツへの道——ホロコーストはなぜ、いつから、どこで、どのように』横浜市立大学新叢書 13、春風社、2022 年。

④ 西洋近現代史研究会・現代史研究会共催、拙著合評会、14:00～17:40

著者冒頭報告（50 分）：「第二次世界大戦はいつはじまったのか？——ヨーロッパ・ユダヤ人絶滅政策＝1941 年 12 月画期説の見地から——」

コメント：

小野寺拓也氏（東京外国語大学）

武井彩佳氏（学習院女子大）

討論（時間延長で 17:55 まで）